

1	水	11月30日—12月1日	16	木	
2	木		17	金	
3	金		18	土	
4	土	礼拝式、聖餐式、教会役員会	19	日	2021年度クリスマス礼拝式
5	日		20	月	
6	月		21	火	
7	火		22	水	
8	水		23	木	
9	木		24	金	Xmas イブ、キャンドル・サービス
10	金		25	土	
11	土	礼拝式	26	日	礼拝式
12	日		27	月	
13	月		28	火	
14	火		29	水	
15	水		30	木	
			31	金	

教会月報

2021年12月

No.367

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

クリスマス・プレゼント

「天使は言った。『恐れるな、わたしは、すべての民に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町に、あなた方のために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。』」

ルカ福音書 2章 10-11節 (聖書協会共同訳聖書)

キリスト教の暦は、メシアである救世主イエス・キリストの誕生を待つことから始まります。ところで、皆さんはクリスマスプレゼントを戴かれたことがおありでしょうか? 「はい、いつも嬉しいプレゼントで最高でした!」と言われる方もおられるでしょう。また、そのような機会がなかったと言われる方もおられるかもしれませんね!

「日本キリスト教海外医療協力会」JOCS 発行の図書「クリスマスのプレゼントをさがして」が送られてきました。心に響いたので皆さんとこの恵みを分かち合いたいと思います。内容は、仲良し二人組、みんちゃんとなっちゃんの会話でクリスマスプレゼントが話題になりました。そこにイキル博士が入ってきます。そして、神様が下さった一番のプレゼントは、今から 2000 年前に、イエス・キリストがこの世界に生まれて下さったと告げます。彼らはタイムマシーンで昔や今の時代に入り、人間の戦争や伝染病などを知ります。

アフリカのタンザニアにあるカリアウではクラウディ(看護助産師)さんと出会います。彼は貧しく学校にいけなかった。しかし、JOCS の援助で学び、医療の現場で素晴らしい働きをしています。日本では赤ちゃんが生まれるのは普通と考えられていますが、アフリカの中では命がけです。クラウディさんの働きで今では安心して出産できるようになりました。仲良し二人組は、私たちにできる献金で、最高のプレゼントをしようと話しました。クリスマスは愛の業を行う日ではないでしょうか?

牧師 永松 清

編集後記

- ◇ 昨年の月報12月号を見返すと、永眠者記念礼拝・墓前礼拝(11月・聖徒の日)記事やクリスマス予定がすべて“コロナ対応”で、マスク姿はもちろん、会食無し・聖歌隊無し・礼拝後の祝会無し、といった紙面でした。今年の12月号も残念ながら昨年同様の様相です。
- ◇ でも、行事は無くてもクリスマスを待ち望む喜びはコロナに関係なく、アドベント(待降節)の週を過ごすたびに高まってきています。
- ◇ 昨年に続いて今年も「クリスマスハガキ」を教会員同士で交換したいと企画しています。◇今号も、寄稿、証しを頂き、ほんとうにありがとうございました。月報読者の皆さんはじめ、周囲の方々おひとりおひとりに、イエス様お誕生を祝うクリスマスの喜びがいっぱいありますように!

永眠者記念礼拝 2021

11月7日(日)、抜けるような青空の下で今年の永眠者記念礼拝の朝を迎えました。礼拝出席者も永眠された先達の方々のご遺族もお越し頂き、召された方々のお写真を会堂の前に飾って礼拝が始まりました。(大人23名、子供2名)



この日は永松師より《召された者は何処に》(ヨハネ黙示録 21:1-8)と題されたメッセージがあり、「イエス様の再臨の時、生きている者も召された者も最後の審判がある。その時を待ちつつ主を仰ぎ歩むのが信仰者の進む道」と語られました。

礼拝後の墓前礼拝は二手(第一、第二墓地)に分かれて行なわれました。第一墓地には8名が参加し、「主われを愛す」「花彩る春を」「球根の中には」を賛美しそれぞれの故人との思い出を偲び、祈りを捧げました。第二墓地は永松牧師含め4名の参加でした。

今年も主に支えられ、感謝の一日となりました。



～第一墓地にて～

寄稿

みかみのことば

E.A.師

神様からのお手紙・聖書をめいめいが手にし、日本語で読むことが出来る幸いを思います。

歴大な資料・記事の中より、幾多の会議を重ね、真剣な討議を経、主の導きの下、現在の旧約聖書39巻と新約聖書27巻が正典と確定したと伝わります。

旧約聖書正典の確定は紀元90年頃。



新約聖書の各書は紀元70年頃より順次記され、教会員の一致を追求し、教会内部の分派化・異端化と戦い、1世紀の終わり頃に苦難を前にしての慰めと勧告の書「ペテロの第一の手紙」が成立したのではないかと考えられています。紀元110年代、I、IIテモテ書、テス書が成立。新約聖書全27巻が正典として公認されたのは4世紀。

戦争、大災害、飢饉、飢餓、疫病の流行、社会の大きな変動を乗り越え伝えられてきた御神の言葉。

ナザレン教会マニュアルⅣ 聖書

「われらは、聖書の完全靈感を信じる。すなわち、旧新約聖書66巻は神の靈感によって与えられ、われらの救いに必要なすべての事について、われらに対する神のみむねを誤りなく啓示する。それゆえに、聖書に含まれていないことは、いかなることであっても、信仰箇条として課すべきではない。」 命の言葉と感謝しつつ、通読しております。

11月証し

R.K.姉

岡山市から現在地に移り住むこと50年。車で旭川沿いを走っていると車窓から気になる看板を見つけました。“猫の美術展”開催中。猫の美術館……。こんなところに美術館？ 猫の？ 猫好きの私の心をくすぐってはいたものの、時が経つと看板のあった辺りはすっかり宅地化し、建物の中に看板も姿をかくしてしまいました。そして私の頭の中からもすっかり消え去っていました。

ところが、運転免許返納を決めた途端、有効期限内に行っておきたいNo1の場所として浮かび上がったのです。

どうしてここなのか。理由なく猫好きだと云うこと、近くにある「？」の場所を尋ねておきたかったと云うのが一番の理由だと思います。



丁度夫の通っていた絵画教室生徒の作品展もあるからと夫も同行する。ところが、山の頂上近くにあるそこは何と！！神社だったのです。

“猫の神様”立派な建物、そして展示物……。わくわく気分は消え失せ、すっかり“お疲れ様”気分での帰宅となりました。

何でも神様の対象物となり得るのだと、納得のひと時でした。

編集部の思いつき・・・新約聖書のパウロの言葉から。

『道を歩きながら、あなた方が拝むいろいろなものを見てみると、知られざる神に、と刻まれている祭壇を見つけたからです。それで、あなた方が知らずに拝んでいるもの、それをわたしはお知らせしましょう。世界とその中の万物とを造られた神が、その方です。この神は天地の主ですから、手で造った神殿などにはお住みになりません。』(使徒言行録17章23,24節)

教会の暦はアドベント(待降節)から！



キリスト教会自体の暦を「教会暦」(きょうかいれき)と呼び、一年は大きく三つに分けられます。第一は主イエス・キリストの降誕(クリスマス)を記念する

「降誕節」、第二は主の受難と復活(イースター)を記念する「受難節」、そして第三は聖霊降臨を記念する「聖霊降臨節」(または三位一体節)です。

教会暦はアドベント(待降節)からスタートします。アドベント(待降節)はクリスマスまで四つの日曜日にわたって続く、クリスマスへの準備期間です。今年のアドベント第一は11/28、第二は12/5、第三は12/12、そして第四にあたるクリスマス礼拝が12/19となります。なお、「降誕節」とは、クリスマスから受難節までの期間をさします。

～出典 ナザレン教会「信徒必携」改訂版

